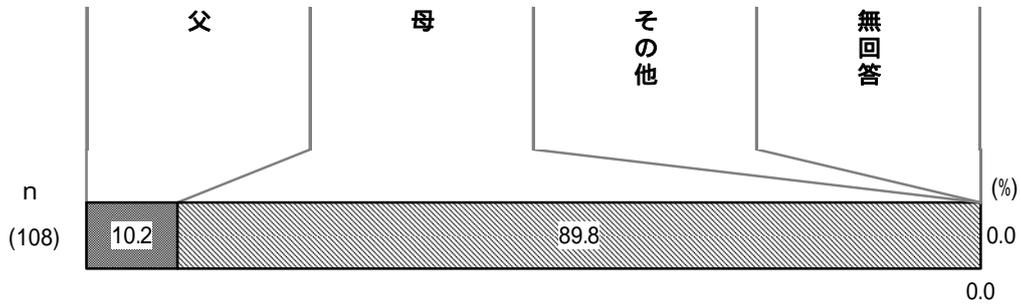


アンケート調査
(発達障害(児)者の家族)

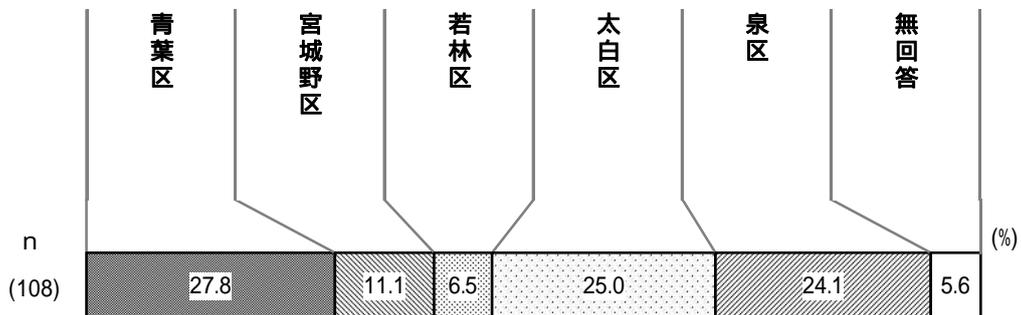
1 基本的な属性について

問1 この調査票の記入者は誰ですか。(S A)



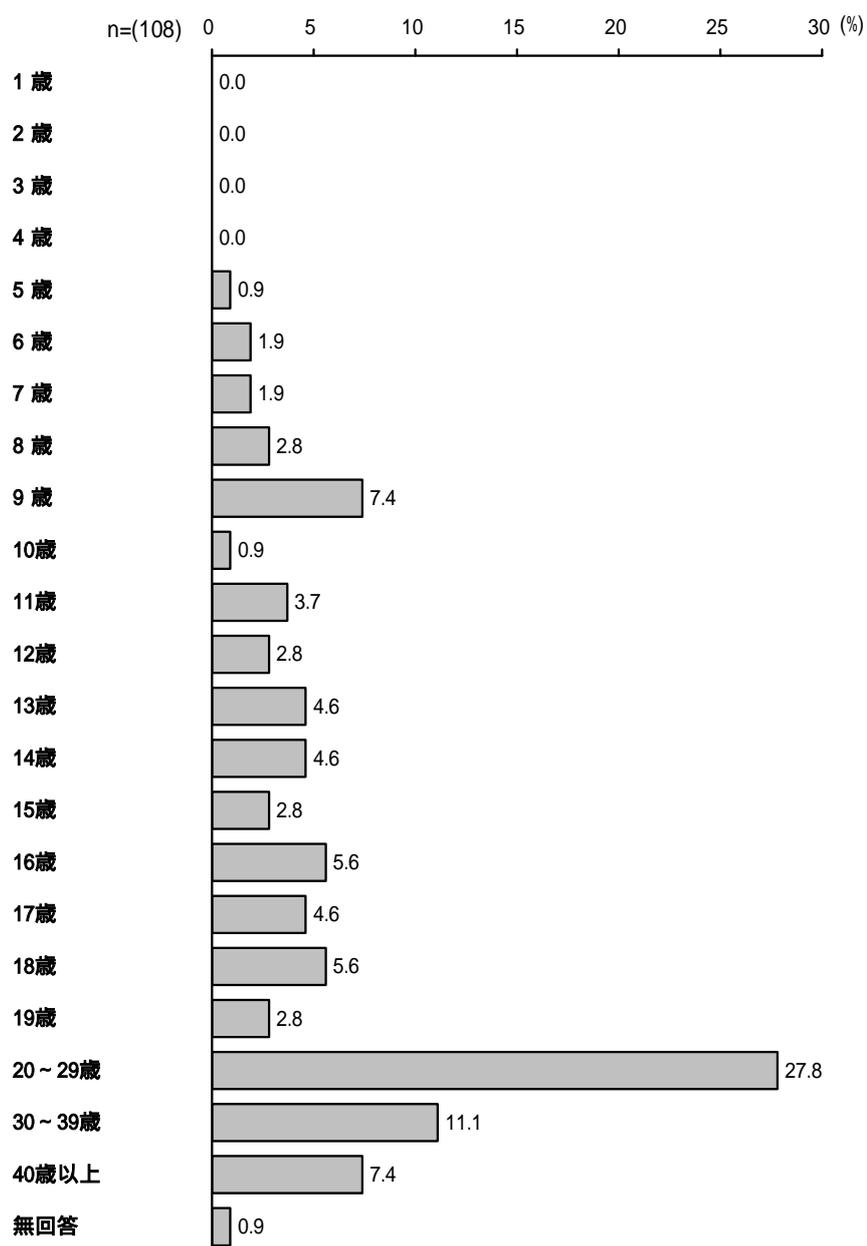
記入者については、「母」が95.9%を占めている。

問2 あなたのお住まいの区はどこですか。(S A)



居住区については「青葉区」(27.8%)が最も多く、以下「太白区」(25.0%)、「泉区」(24.1%)、「宮城野区」(11.1%)、「若林区」(6.5%)となっている。

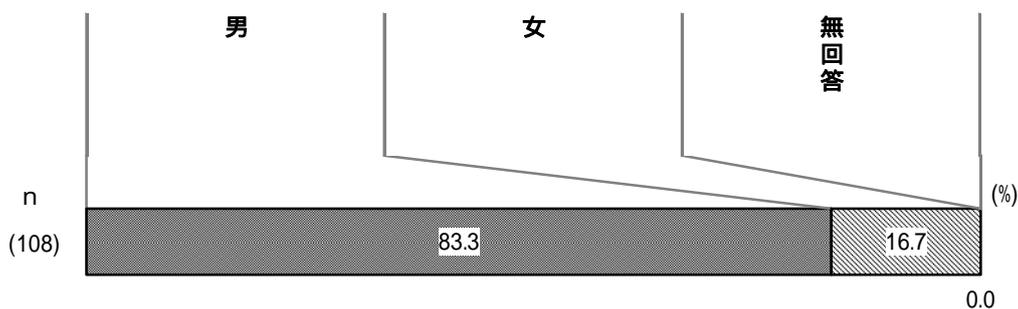
問3 お子さんの年齢は何歳ですか。(数値)



年齢については、「9歳」(7.4%)が最も多く、以下「16歳」、「18歳」(ともに5.6%)、「13歳」、「14歳」、「17歳」(ともに4.6%)となっている。

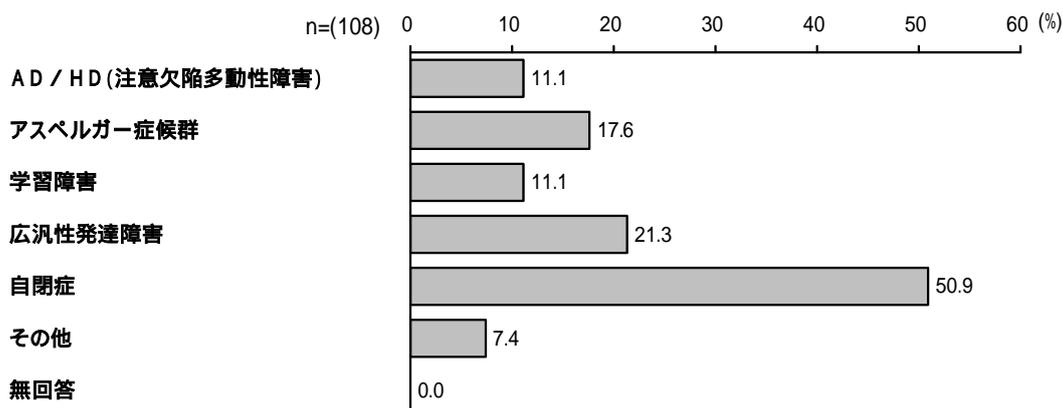
なお、「20～29歳」が27.8%、「30～39歳」が11.1%、「40歳以上」が7.4%となっている。

問4 お子さんの性別はどちらですか。(SA)



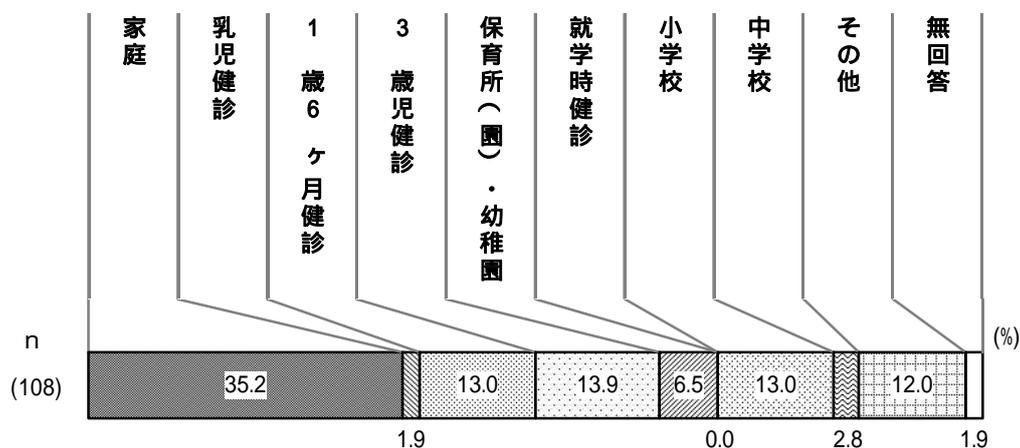
性別については、「男」が83.3%を占めている。

問5 お子さんの障害は次のうちどれですか。(MA)



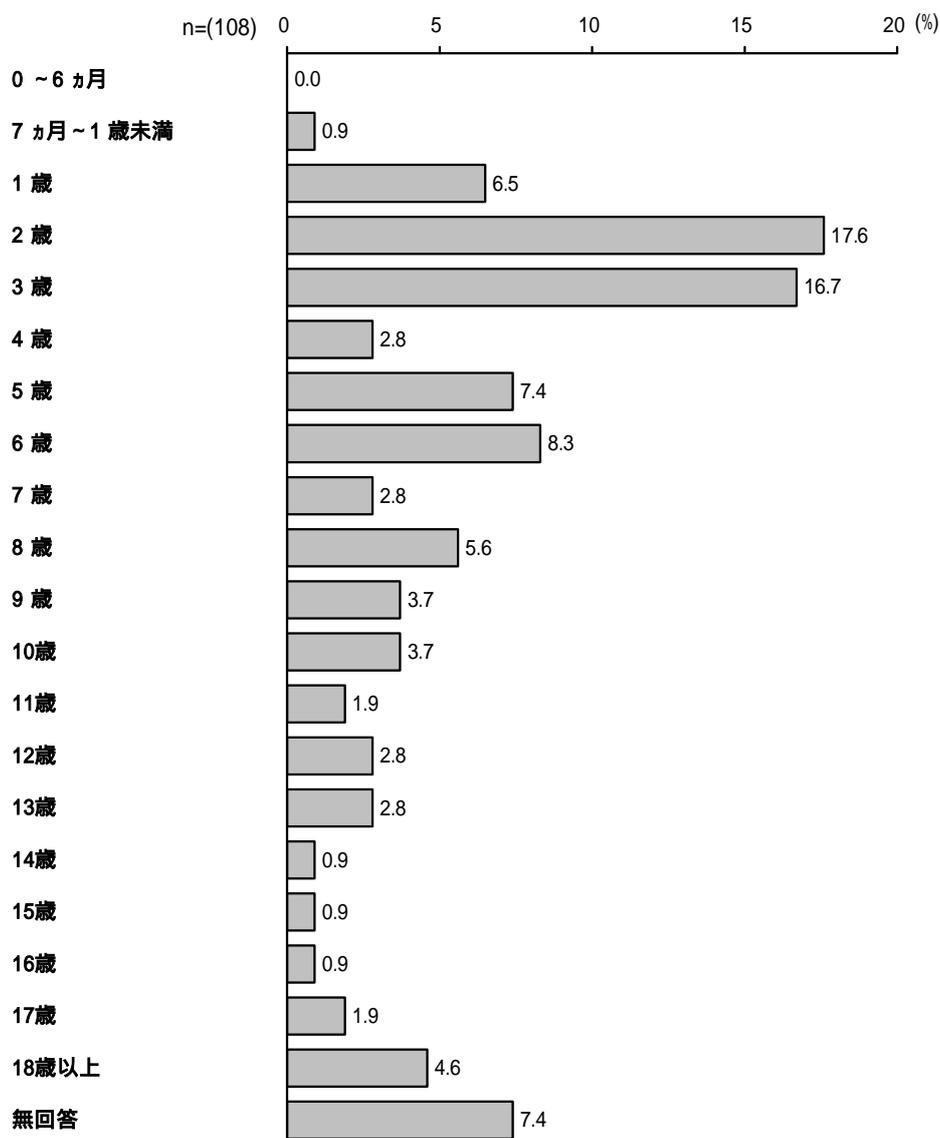
主たる障害については、「自閉症」(50.9%)が最も多く、以下「広汎性発達障害」(21.3%)、「アスペルガー症候群」(17.6%)となっている。

問6 問5で選んだお子さんの障害はどこで(いつ)気づきましたか。(S A)



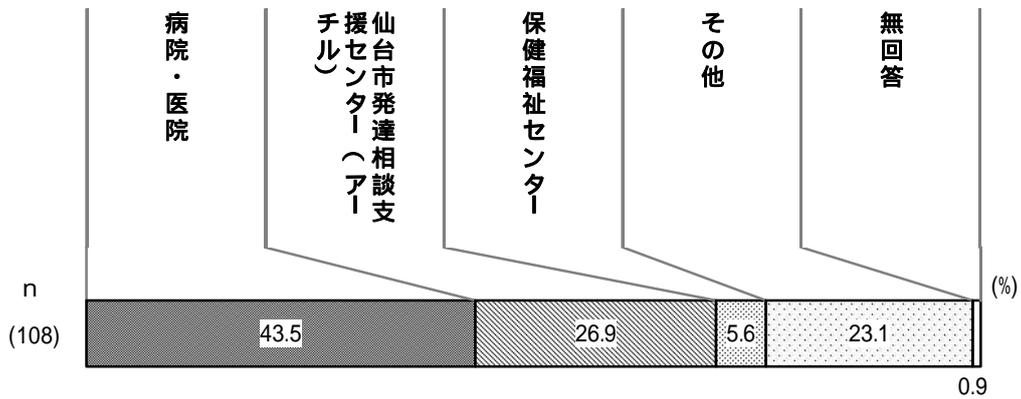
子どもの障害に気づいた場所については、「家庭」(35.2%)が最も多く、以下「3歳児健診」(13.9%)、「1歳6ヶ月健診」、「小学校」(ともに13.0%)となっている。

問7 問5で選んだ障害の告知を受けた時期はいつですか。(数値)



障害があるといわれた時期については、「2歳」(17.6%)が最も多く、以下「3歳 16.7」(%)、「6歳」(8.3%)、「5歳」(7.4%)、「1歳」(6.5%)となっている。

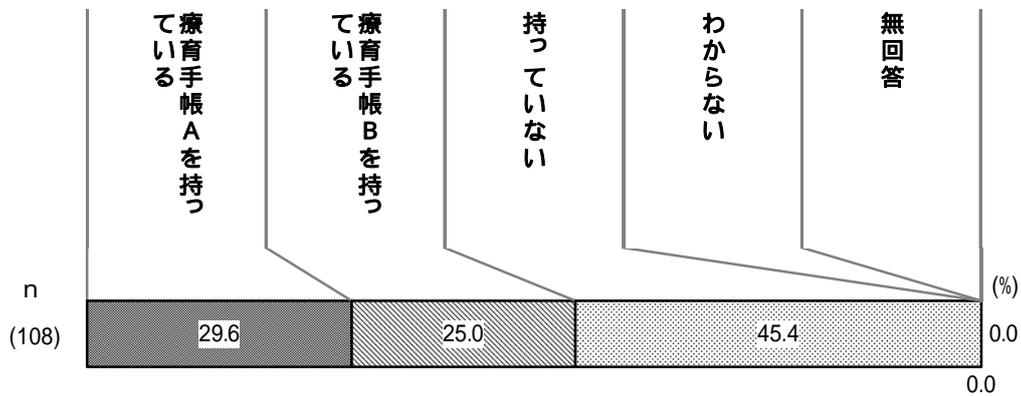
問8 お子さんの障害はどこで診断されましたか。(S A)



障害があるといわれた場所については、「病院・医院」(43.5%)が最も多く、以下「仙台市発達相談支援センター(アーチル)」(26.9%)となっている。

なお、「その他」については、「児童相談所」や「県外の施設」などとなっている。

問9 お子さんは療育手帳を持っていますか。(S A)



療育手帳の有無については、「療育手帳Aを持っている」が29.6%、「療育手帳Bを持っている」が25.0%となっている。

尚、「持っていない」は45.4%となっている。

問 10 問 9 において「3 持っていない」を選んだ方におたずねします。

持っていない理由は何ですか。(MA)

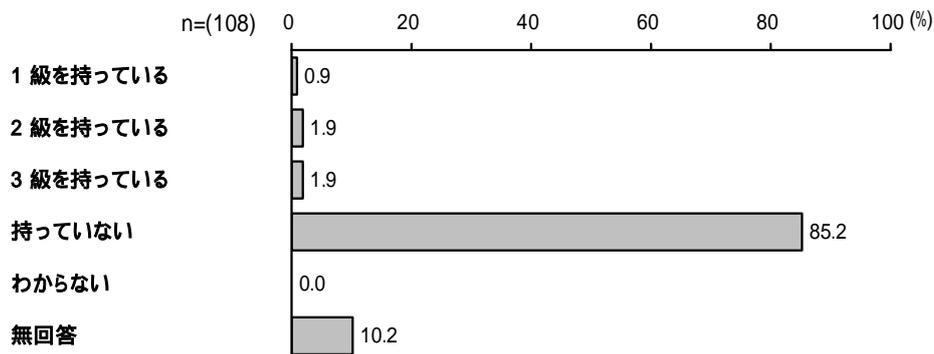
(上段：件数、下段：%)

調査数	子どもが対象ではないと言われたから	療育手帳を知らなかったから	持つのがいやだったから	その他	無回答
49 100.0	26 53.1	7 14.3	3 6.1	18 36.7	0 0.0

療育手帳を持っていない理由については、「子どもが対象ではないと言われたから」(26件)が最も多く、以下「療育手帳を知らなかったから」(7件)、「持つのがいやだったから」(3件)となっている。

なお、「その他」については、「対象かどうか分からない」などとなっている。

問 11 お子さんは精神障害者保健福祉手帳を持っていますか。(S A)



精神障害者保健福祉手帳の有無については、「2 級」、「3 級」がともに 1.9%、「1 級」が 0.9%となっている。

なお、「持っていない」が 85.2%を占めている。

問 12 問 11 において「4 持っていない」を選んだ方におたずねします。

持っていない理由は何ですか。(M A)

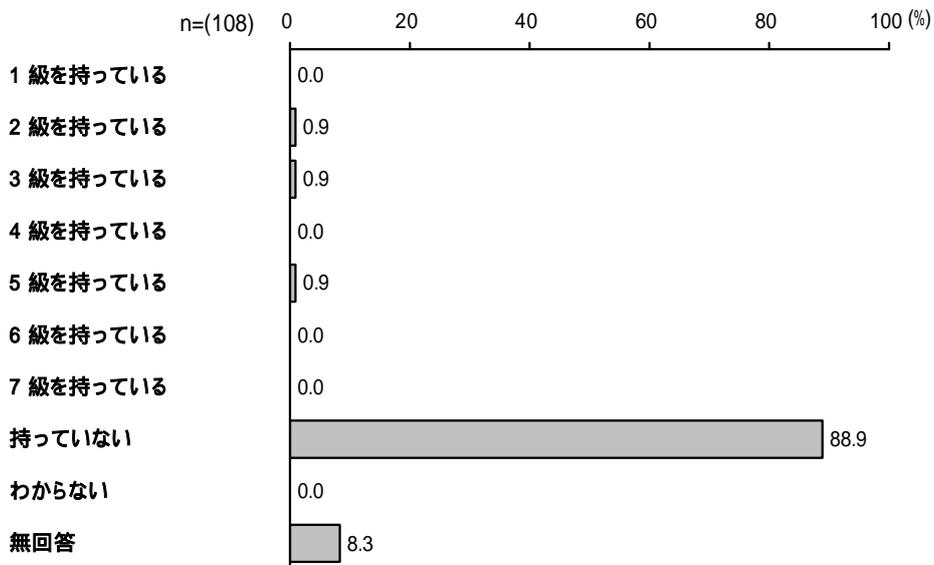
(上段 : 件数、下段 : %)

調査数	子どもが対象ではないと言われたから	精神障害者保健福祉手帳を知らなかったから	持っていないやだっただから	その他	無回答
92	33	27	2	31	4
100.0	35.9	29.3	2.2	33.7	4.3

精神障害者手帳を持っていない理由については、「子どもが対象ではないと言われたから」(33 件) が最も多く、以下「精神障害者保健福祉手帳を知らなかったから」(27 件) となっている。

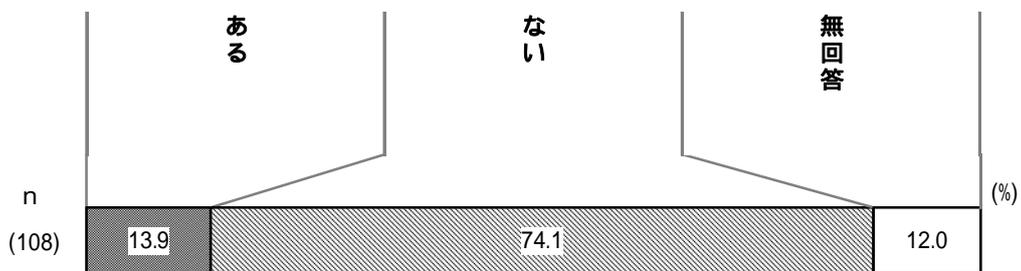
なお、「その他」については、「対象かどうか分からない」、「療育手帳を持っているから必要ない」などとなっている。

問 13 お子さんは身体障害者手帳を持っていますか。(S A)



身体障害者手帳の有無については、「2 級」、「3 級」、「5 級」がそれぞれ 0.9% となっている。なお、「持っていない」が 88.9% を占めている。

問 14 他の障害はありますか。(S A)



主たる障害以外の障害については、「ない」が 74.1% を占めている。

2 日常生活について

問 15 平日の日中、お子さんが主に過ごしている場所はどこですか。(S A)

就学前 (上段：件数、下段：%)

調査数	自宅	保育所(園)	幼稚園	その他	無回答
1	0	1	0	0	0
100.0	0	100.0	0	0	0

小学生・中学生 (上段：件数、下段：%)

調査数	特別支援学校・学級	普通学級	その他	無回答
36	15	17	2	2
100.0	41.7	47.2	5.6	5.6

16歳以上 (上段：件数、下段：%)

調査数	特別支援学校	高校	専門学校	大学	通所施設	勤務先	自宅	その他	無回答
70	4	9	1	7	22	3	8	15	1
100.0	5.7	12.9	1.4	10.0	31.4	4.3	11.4	21.4	1.4

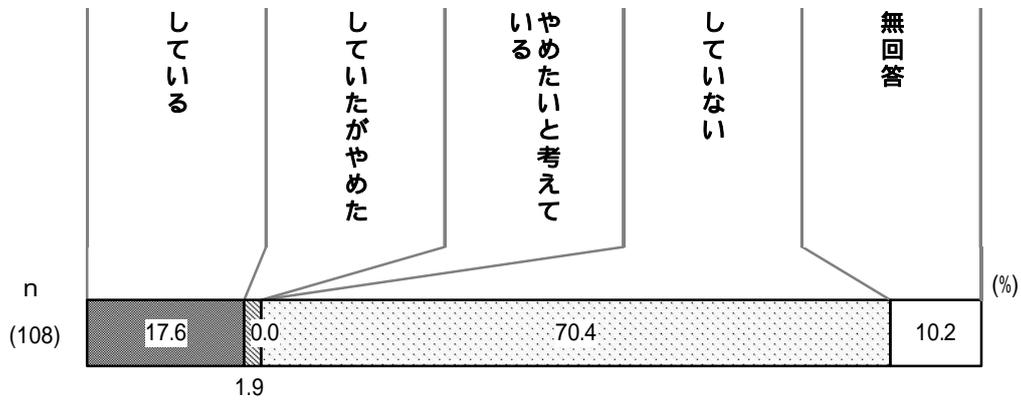
平日の日中主に過ごしている場所については、就学前は「保育所(園)」(1件)となっている。小学生・中学生は「普通学級」(17件)が最も多く、以下「特別支援学校・学級」(15件)となっている。

16歳以上は「通所施設」(22件)が最も多く、以下「高校」(9件)、「自宅」(8件)、「大学」(7件)、「特別支援学校」(4件)、「勤務先」(3件)、「専門学校」(1件)となっている。

なお、16歳以上の「その他」については、「入所施設」、「学校」などとなっている。

3 就労状況について

問 16 ご本人は現在仕事をしていますか。(S A)



仕事の有無については、「していない」(70.4%)が最も多く、以下「している」(17.6%)、「していたがやめた」(1.9%)となっている。

問 17 問 16 において「 4 していない」を選択した方におたずねします。

仕事をしていない理由は何ですか。(M A)

(上段：件数、下段：%)

調査数	障害の程度・特性にあった仕事がないため	自分のニーズにあった仕事がないため	通勤が困難なため	病気のため	体力的にできないため	求人が少ないため	求人が少なく仕事が見つからないため	通学中・勉強中、職業訓練中のため	仕事をする必要がないため	その他	無回答
76	14	0	0	1	1	0	52	0	6	2	
100.0	18.4	0.0	0.0	1.3	1.3	0.0	68.4	0.0	7.9	2.6	

仕事をしていない理由については、「通学中・勉強中、職業訓練中のため」(52件)が最も多く、以下「障害の程度・特性にあった仕事がないため」(14件)となっている。

問 18 問 16 おいて「1 している」または「2 していたがやめた」を選択した方におたずねし
ます。

(1) どのような仕事をしていますか(いましたか)。(SA)

(上段：件数、下段：%)

調査数	会社員、公務員、団体職員などの常勤の就労	パート、アルバイト	自営業(手伝いを含む)	障害者福祉施設での生産活動	職親制度による訓練	内職	その他	無回答
21 100.0	2 9.5	7 33.3	0 0.0	10 47.6	0 0.0	0 0.0	1 4.8	1 4.8

就いている仕事の種類については、「障害者福祉施設での生産活動」(10件)が最も多く、以下「パート、アルバイト」(7件)、「会社員、公務員、団体職員などの常勤の就労」(2件)となっている。

(2) どのような内容の仕事をしていますか(いましたか)。(SA)

(上段：件数、下段：%)

調査数	事務職	販売職	専門的・技術的職業	サービス業	運輸業	製造・加工業	建設・土木業	農林水産業	障害者福祉施設での作業・活動	その他	無回答
21 100.0	1 4.8	2 9.5	1 4.8	1 4.8	0 0.0	1 4.8	0 0.0	1 4.8	11 52.4	3 14.3	0 0.0

就いている仕事の内容については、「障害者福祉施設での作業・活動」(11件)が最も多く、以下「販売職」(2件)、「事務職」、「専門的・技術的職業」、「サービス業」、「製造・加工業」、「農林水産業」(ともに1件)となっている。

(3) 1日あたりの仕事の時間はどのくらいですか(でしたか)。(SA)

(上段:件数、下段:%)

調査数	2時間未満	2～4時間	4～6時間	6～8時間	8時間以上	わからない	無回答
21 100.0	3 14.3	1 4.8	9 42.9	6 28.6	2 9.5	0 0.0	0 0.0

1日あたりの仕事時間については、「4～6時間」(9件)が最も多く、以下「6～8時間」(6件)、「2時間未満」(3件)、「8時間以上」(2件)、「2～4時間」(1件)となっている。

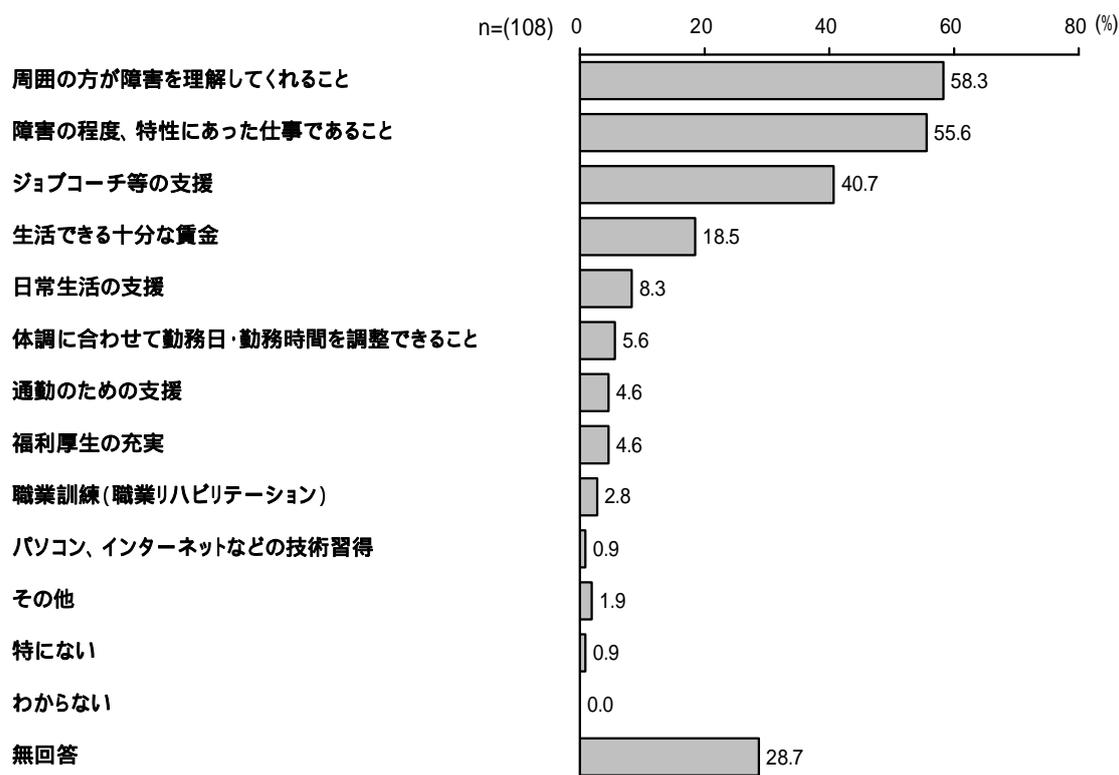
(4) 仕事による収入は月額どのくらいですか(でしたか)。(SA)

(上段:件数、下段:%)

調査数	1万円未満	1万円以上～5万円未満	5万円以上～10万円未満	10万円未満	10万円以上～15万円未満	15万円以上～20万円未満	20万円以上～30万円未満	30万円以上	わからない	無回答
21 100.0	4 19.0	6 28.6	6 28.6	0 0.0	1 4.8	1 4.8	0 0.0	0 0.0	3 14.3	0 0.0

仕事による月収については、「1万円以上～5万円未満」、「5万円以上～10万円未満」(ともに6件)が最も多く、以下「1万円未満」(4件)、「15万円以上～20万円未満」、「20万円以上～30万円未満」(ともに1件)となっている。

問 19 ご本人が仕事を続ける（就職する）ためには何が必要と思いますか。（MA）



仕事を続ける（就職する）ために必要なことについては、「周囲の方が障害を理解してくれること」(58.3%) が最も多く、以下「障害の程度、特性にあった仕事であること」(55.6%)、「ジョブコーチ等の支援」(40.7%) となっている。

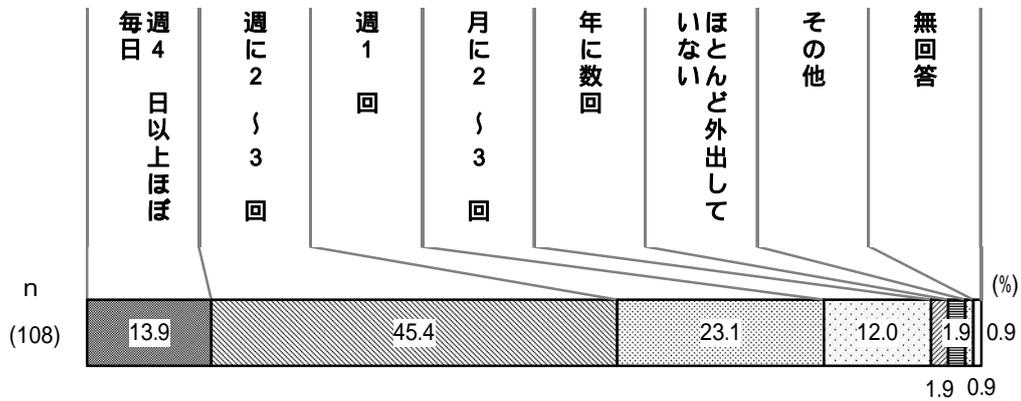
【就労状況別】

	調査数 (n)	周囲の方が障害を理解してくれること	障害の程度、特性にあった仕事であること	ジョブコーチ等の支援	生活できる十分な賃金	日常生活の支援	体調に合わせて勤務時間を調整できること	通勤のための支援	福利厚生 の充実	職業訓練(職業リハビリテーション)	パソコン、インターネットなどの技術習得	その他	特にない	わからない	無回答
上段：件数 下段：%															
全 体	108 100.0	63 58.3	60 55.6	44 40.7	20 18.5	9 8.3	6 5.6	5 4.6	5 4.6	3 2.8	1 0.9	2 1.9	1 0.9	0 0.0	31 28.7
仕事をしている	19 100.0	14 73.7	16 84.2	10 52.6	3 15.8	2 10.5	1 5.3	1 5.3	3 15.8	1 5.3	0 0.0	1 5.3	1 5.3	0 0.0	0 0.0
仕事をしていない	78 100.0	47 60.3	41 52.6	32 41.0	16 20.5	6 7.7	5 6.4	4 5.1	2 2.6	2 2.6	1 1.3	1 1.3	0 0.0	0 0.0	23 29.5

就労状況別にみると、仕事をしている人では「周囲の方が障害を理解してくれること」、「障害の程度、特性にあった仕事であること」、「ジョブコーチ等の支援」が仕事をしていない人に比べて多くなっている。

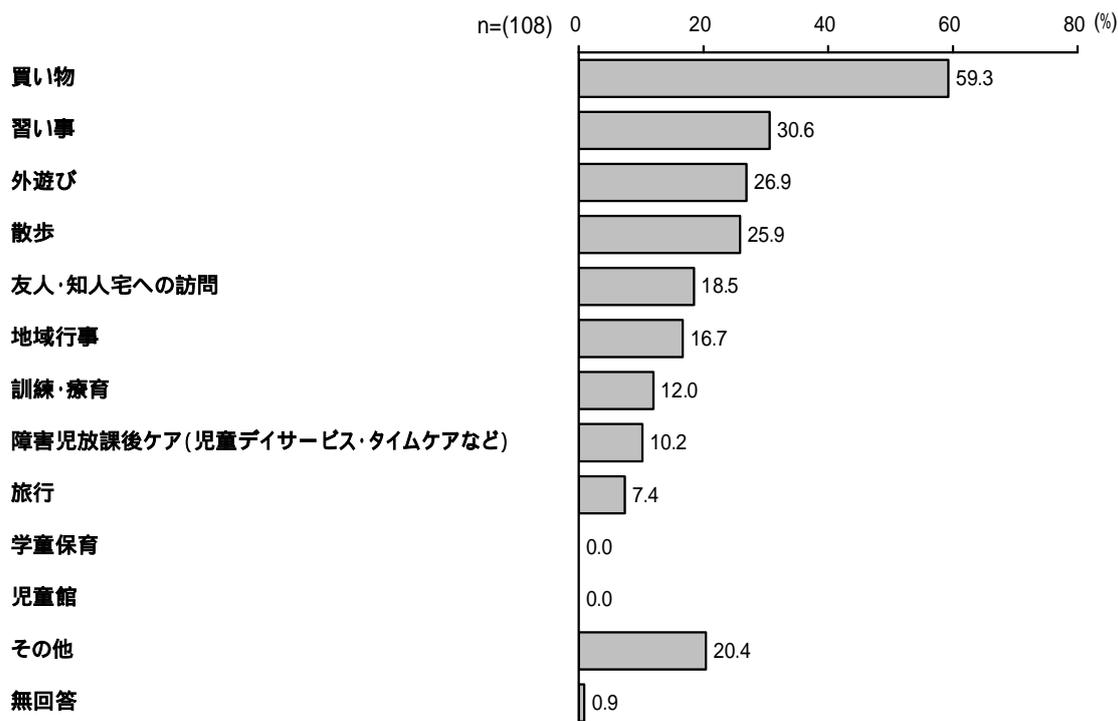
4 社会参加について

問 20 余暇活動などへの参加についておたずねします。お子さんは通勤、通園、通学、通院以外でどの程度外出していますか。(S A)



外出頻度(通勤、通園、通学、通院を除く)については、「週に2~3回」(45.4%)が最も多く、以下「週1回」(23.1%)、「週4日以上ほぼ毎日」(13.9%)、「月に2~3回」(12.0%)となっている。

問 21 ご本人の外出の目的は何ですか（通勤、通園、通学、通院を除く）。（MA）



外出の主な目的（通勤、通園、通学、通院を除く）については、「買い物」（59.3%）が最も多く、以下「習い事」（30.6%）、「外遊び」（26.9%）、「散歩」（25.9%）となっている。

問 22 問 21 において「10 地域行事」を選択した方におたずねします。

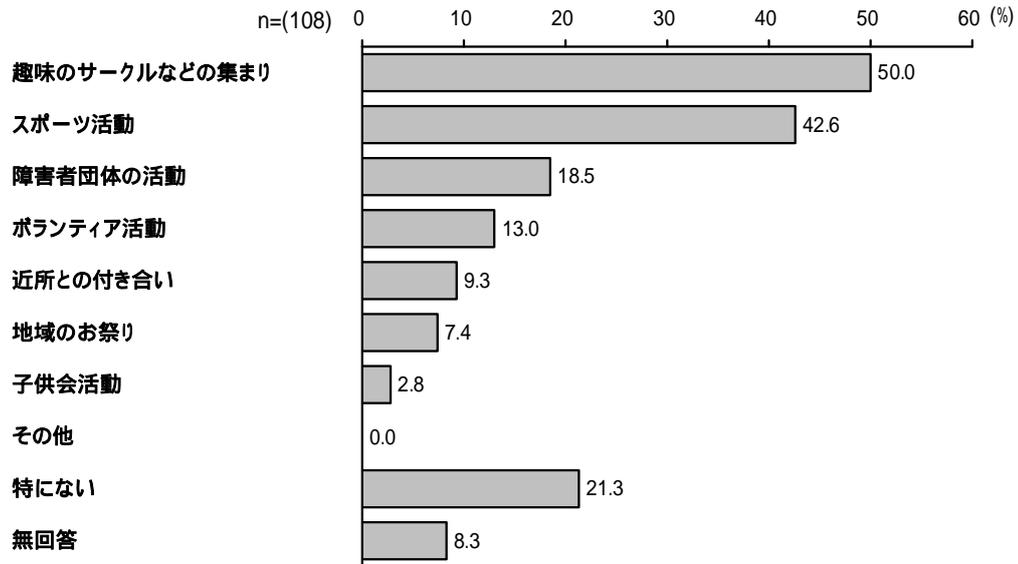
どんな行事に参加しましたか。（MA）

（上段：件数、下段：%）

調査数	地域のお祭り	子供会活動	ボランティア活動	ま趣味のサークルなどの集まり	スポーツ活動	障害者団体の活動	その他	無回答
18	4	6	1	4	4	8	1	0
100.0	22.2	33.3	5.6	22.2	22.2	44.4	5.6	0.0

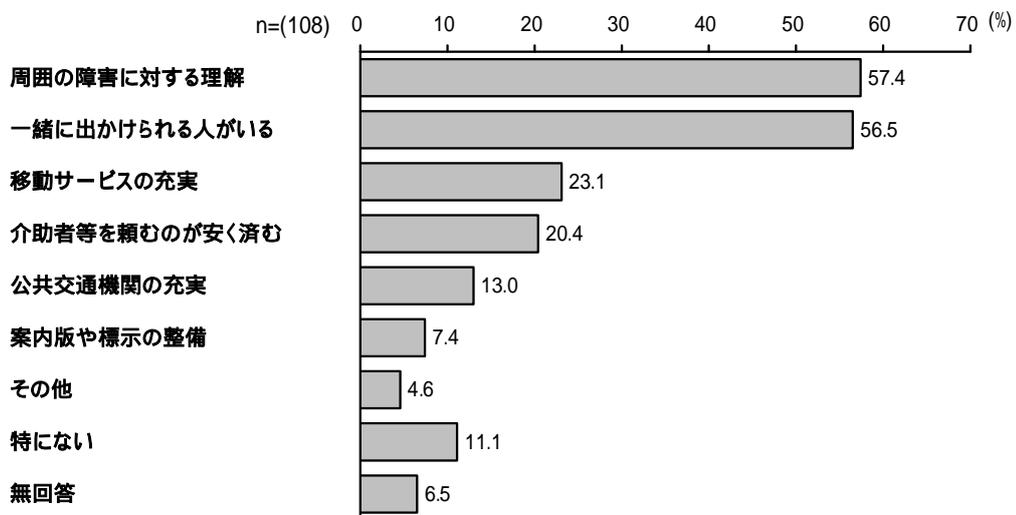
参加したことがある地域行事については、「障害者団体の活動」（8件）が最も多く、以下「子供会活動」（6件）、「地域のお祭り」、「趣味のサークルなどの集まり」、「スポーツ活動」（すべて4件）となっている。

問 23 今後、ご本人が参加してほしい地域活動はどれですか。(M A)



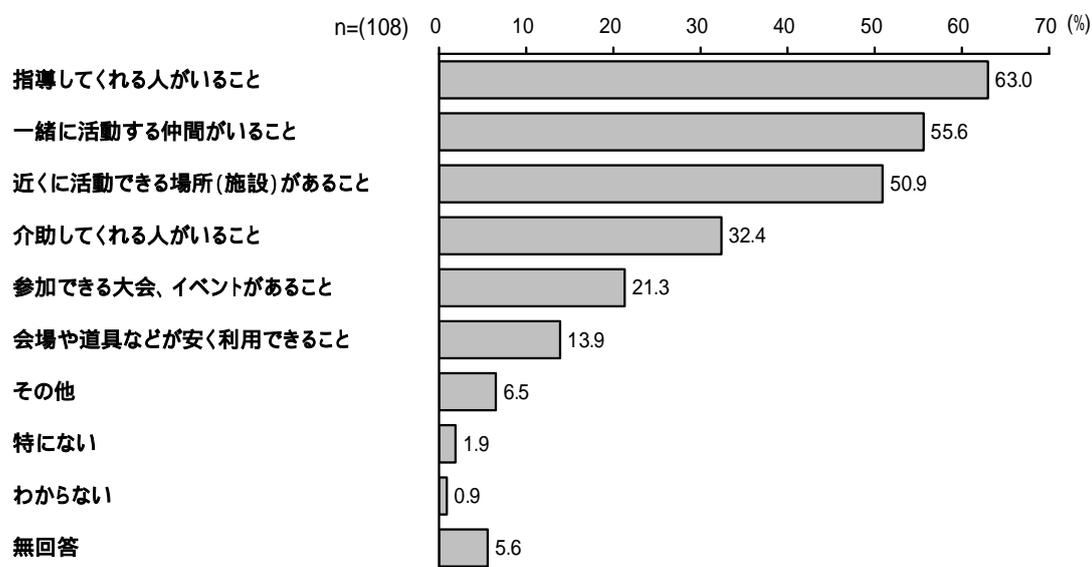
今後参加させたい地域活動については、「趣味のサークルなどの集まり」(50.0%)が最も多く、以下「スポーツ活動」(42.6%)、「障害者団体の活動」(18.5%)、「ボランティア活動」(13.0%)となっている。

問 24 どのような支援があればお子さんはより外出しやすくなりますか。(M A)



より外出しやすくなるために必要なことについては、「周囲の障害に対する理解」(57.4%)、「一緒に出かけられる人がいる」(56.5%)がともに多く、以下「移動サービスの充実」(23.1%)、「介助者等を頼むのが安く済む」(20.4%)となっている。

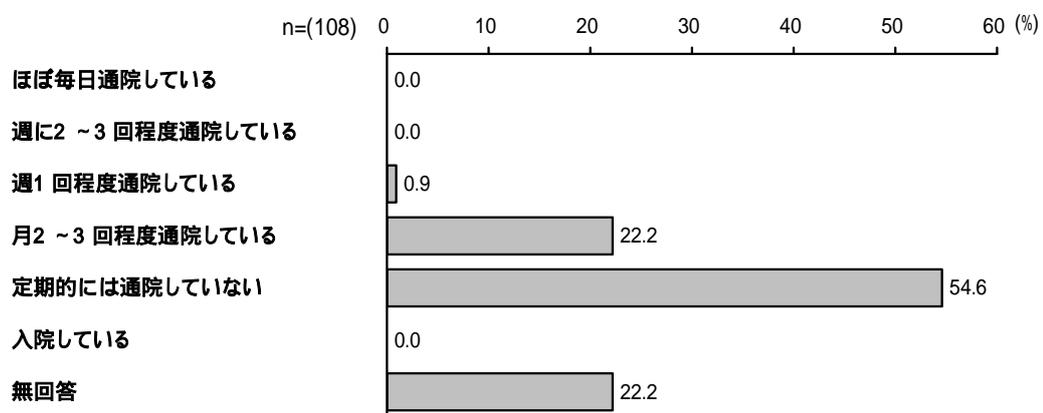
問 25 どのような支援があればお子さんがスポーツや娯楽をより楽しむことができますか。(M A)



スポーツや娯楽をより楽しむために必要なことについては、「指導してくれる人がいること」(63.0%)が最も多く、以下「一緒に活動する仲間がいること」(55.6%)、「近くに活動できる場所(施設)があること」(50.9%)となっている。

5 健康・医療について

問 26 お子さんは普段、定期的に通院していますか。(S A)



定期的通院の有無については、「定期的には通院していない」(54.6%)が最も多く、以下「月2~3回程度通院している」(22.2%)となっている。

問 27 問 26 において「1 ほぼ毎日通院している」、「2 週に2~3回程度通院している」、「3 週1回程度通院している」、「4 月2~3回程度通院している」のいずれかを選択した方におたずねします。

通院の際に介助は必要ですか。(S A)

(上段：件数、下段：%)

調査数	必要である	必要ない	無回答
25	21	4	0
100.0	84.0	16.0	0.0

通院の際に介助の必要性については、「必要である」が21件、「必要ない」が4件となっている。

問 28 問 27 において「1 必要である」を選択した方におたずねします。

(1) 主な介助者はだれですか。(お子さんから見た関係を選択してください)(S A)

(上段: 件数、下段: %)

調査数	配偶者	子ども	親	兄弟姉妹	祖父母	親戚・友人	近所の人	ホームヘルパー	ガイドヘルパー	介助のために雇った人	ボランティア	施設職員	その他	無回答
21	1	0	18	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0
100.0	4.8	0.0	85.7	0.0	0.0	0.0	0.0	4.8	0.0	0.0	0.0	4.8	0.0	0.0

通院の際の主な介助者については、「親」(18件)が最も多く、以下「配偶者」、「ホームヘルパー」、「施設職員」(すべて1件)となっている。

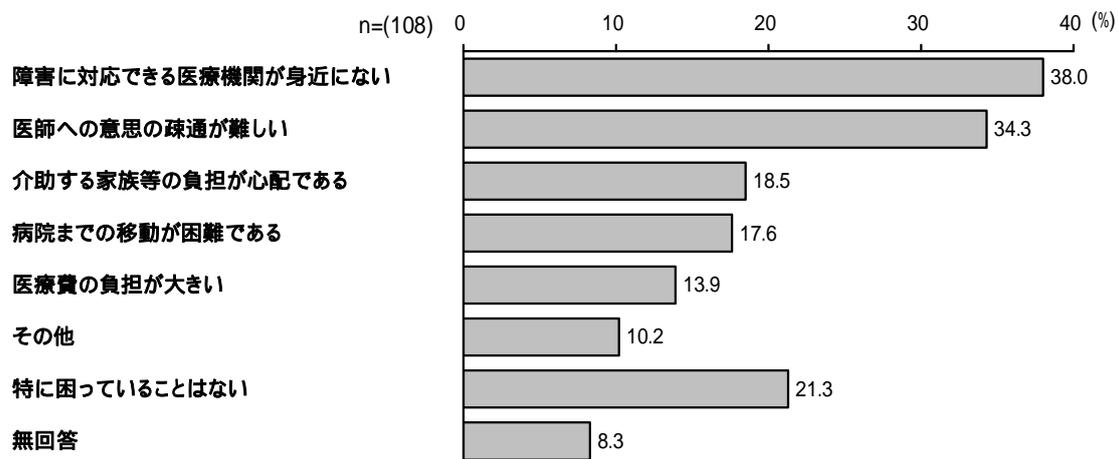
(2)(1) 以外に介助はありますか。(S A)

(上段: 件数、下段: %)

調査数	配偶者	子ども	親	兄弟姉妹	祖父母	親戚・友人	近所の人	ホームヘルパー	ガイドヘルパー	介助のために雇った人	ボランティア	施設職員	その他	他の介助者はいない	無回答
21	1	0	1	4	2	0	0	1	0	0	0	1	0	10	1
100.0	4.8	0.0	4.8	19.0	9.5	0.0	0.0	4.8	0.0	0.0	0.0	4.8	0.0	47.6	4.8

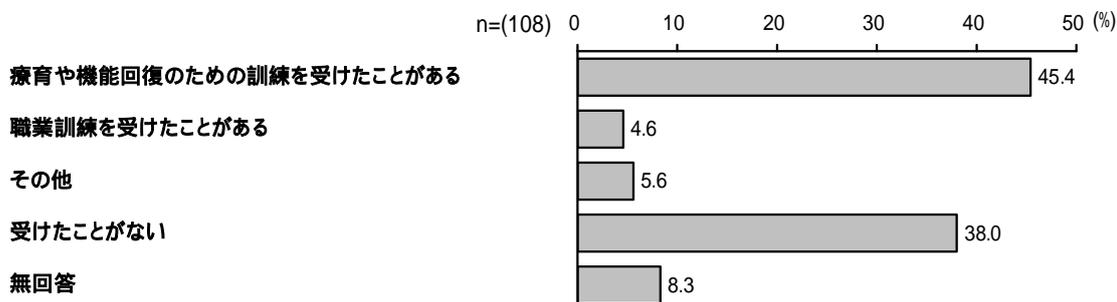
通院の際の主な介助者以外の介助者については、「兄弟姉妹」(4件)が最も多く、以下「祖父母」(2件)、「配偶者」、「親」、「ホームヘルパー」、「施設職員」(すべて1件)となっている。
 なお、「他の介助者はいない」が10件となっている。

問 29 医療機関を利用する際に困っていることは何ですか。(M A)



医療機関を利用する際に困っていることについては、「障害に対応できる医療機関が身近にない」(38.0%)が最も多く、以下「医師への意思の疎通が難しい」(34.3%)、「介助する家族等の負担が心配である」(18.5%)、「病院までの移動が困難である」(17.6%)となっている。

問 30 お子さんは、療育や訓練(リハビリテーション)を受けたことがありますか。(M A)



療育や訓練(リハビリテーション)を受けたことの有無については、「療育や機能回復のための訓練を受けたことがある」(45.4%)が最も多く、以下「職業訓練を受けたことがある」(4.6%)となっている。

なお、「受けたことがない」が38.0%となっている。

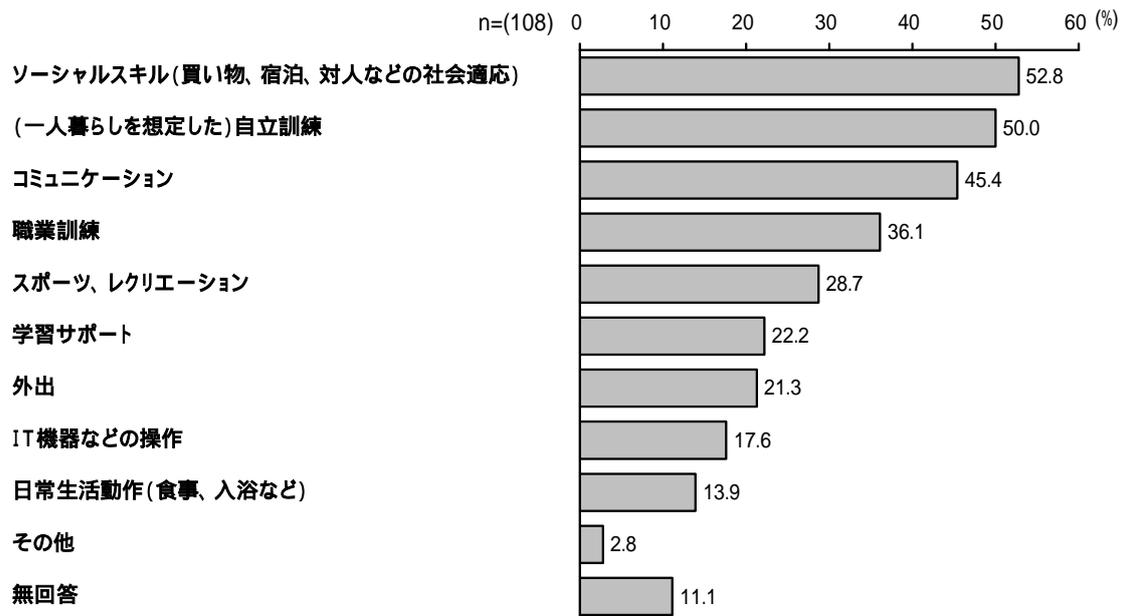
問 31 問 30 において「1 療育や機能回復のための訓練を受けたことがある」、「2 職業訓練を受けた」、「3 その他」を選択した方におたずねします。

どこでその訓練は受けましたか。(MA)

調査数	病院・診療所	県立こども病院	保育所(園)・幼稚園	学校	通園施設	発達相談支援センター(アーチル)	児童相談所	障害者更生相談所	民間の療育・相談機関	保健所(保健福祉センター)	拓桃医療療育センター	職業訓練施設	(上段:件数、下段:%)		
													通所施設	その他	無回答
58	15	6	5	8	15	10	11	1	16	2	1	1	5	14	0
100.0	25.9	10.3	8.6	13.8	25.9	17.2	19.0	1.7	27.6	3.4	1.7	1.7	8.6	24.1	0.0

療育や訓練(リハビリテーション)を受けた場所については、「民間の療育・相談機関」(16件)が最も多く、以下「病院・診療所」、「通園施設」(ともに15件)、「児童相談所」(11件)、「発達相談支援センター(アーチル)」(10件)となっている。

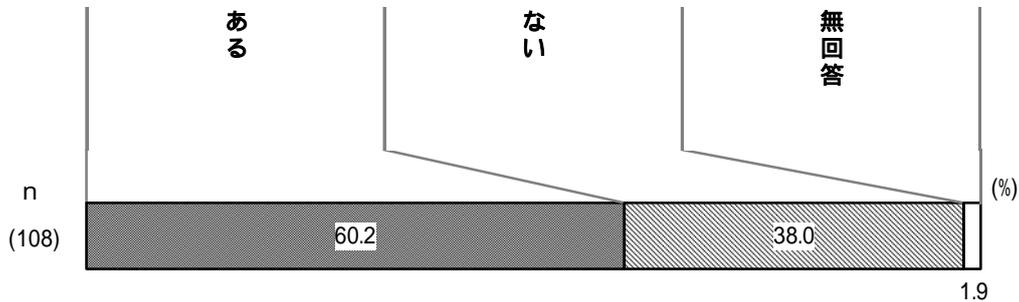
問 32 今後、どのような分野での療育や訓練(リハビリテーション)を望みますか。(MA)



今後希望する、療育や訓練(リハビリテーション)については、「ソーシャルスキル(買い物、宿泊、対人などの社会適応)」(52.7%)が最も多く、以下「(一人暮らしを想定した)自立訓練」(50.0%)、「コミュニケーション」(45.4%)、「職業訓練」(36.1%)となっている。

6 福祉サービスについて

問 33 あなたは障害者のサービスを利用したことがありますか。(S A)



障害者の福祉サービス利用の有無については、「ある」が 60.2%、「ない」が 38.0%となっている。

問 34 問 33 において「1 ある」を選択した方におたずねします。

(1) これまでにどのような福祉サービスを利用したことがありますか。(M A)

(上段：件数、下段：%)

調査数	ホームヘルプサービス	生活介護・自立訓練	ショートステイ	通所(通園)施設	入所施設	保育所(園)・幼稚園	障害児(者)家族等支援事業(レスパイト)	障害児放課後ケア(児童デイサービス・タイムケアなど)	9 児童館	学童保育	その他	無回答
65	9	3	15	40	6	21	22	18	8	7	9	1
100.0	13.8	4.6	23.1	61.5	9.2	32.3	33.8	27.7	12.3	10.8	13.8	1.5

これまでに利用した福祉サービスについては、「通所(通園)施設」(40件)が最も多く、以下「障害児(者)家族等支援事業(レスパイト)」(22件)、「保育所(園)・幼稚園」(21件)、「障害児放課後ケア(児童デイサービス・タイムケアなど)」(18件)、「ショートステイ」(15件)となっている。

(2) 福祉サービスを利用するにあたって不自由していることは何ですか。(MA)

(上段：件数、下段：%)

調査数	利用料が高い	サービスの質がよくない	時間が合わない	定員が一杯で希望するサービスが受けられない	手続きが面倒である	自分の障害程度・特性に合ったサービスが受けられない	通いにくい(遠い・通う手段が不便)	利用者同士や職員との人間関係	施設の広さや設備	作業や訓練の内容が合わない	医療的なケアが受けられない	その他	特に不自由はない	わからない	無回答
65 100.0	17 26.2	5 7.7	9 13.8	24 36.9	13 20.0	12 18.5	15 23.1	5 7.7	4 6.2	5 7.7	3 4.6	7 10.8	11 16.9	1 1.5	3 4.6

福祉サービスを利用するにあたって不自由していることについては、「定員が一杯で希望するサービスが受けられない」(24件)が最も多く、以下「利用料が高い」(17件)、「通いにくい(遠い・通う手段が不便)」(15件)、「手続きが面倒である」(13件)、「自分の障害程度・特性に合ったサービスが受けられない」(12件)となっている。

問35 問33において「2 ない」を選択した方におたずねします。

利用しない理由は何ですか。(SA)

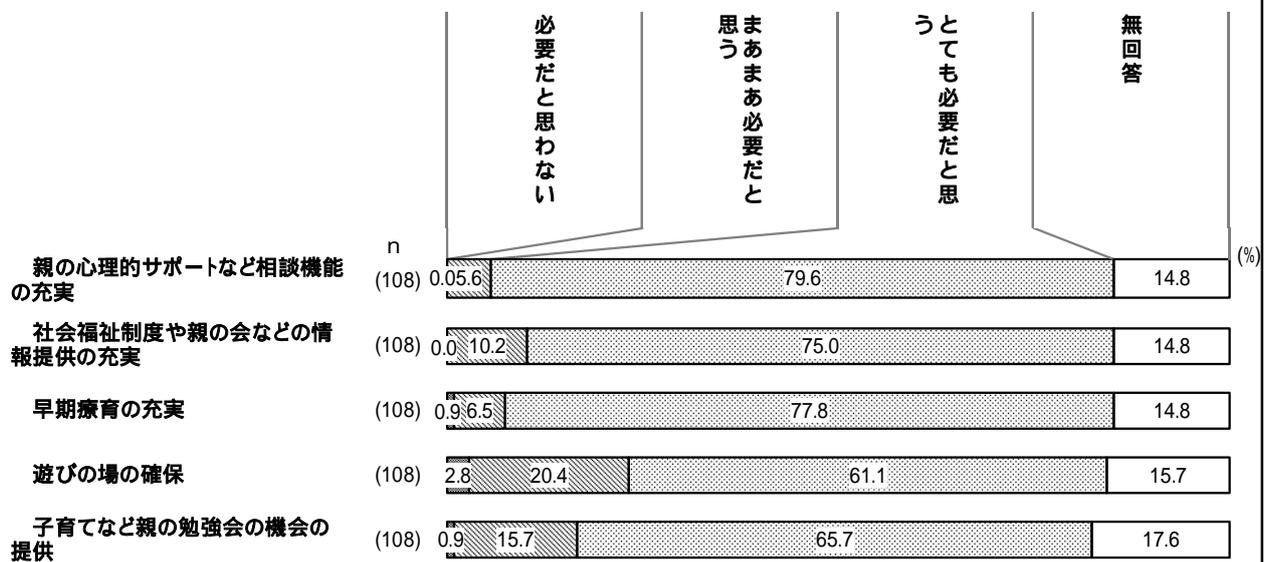
(上段：件数、下段：%)

調査数	必要ない	場所が遠い	定員がいっぱいに入れない	医療的ケアが受けられない	制度の対象外とされている	何が利用できるかわからない	その他	無回答
41 100.0	11 26.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	7 17.1	19 46.3	2 4.9	2 4.9

福祉サービスを利用しない理由については、「何が利用できるかわからない」(19件)が最も多く、以下「必要ない」(11件)、「制度の対象外とされている」(7件)となっている。

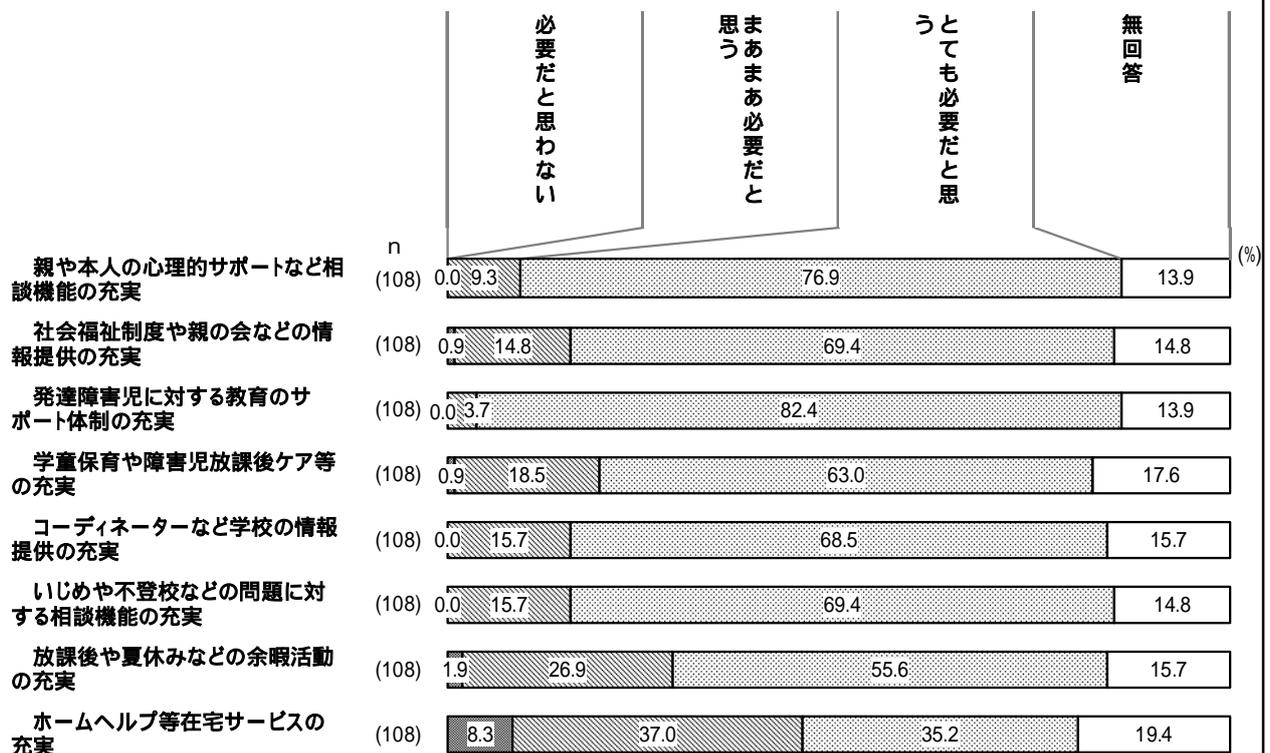
問 36 以下の福祉サービスについてどの程度必要だと思いますか。時期別 [就学前・小学校・中学校・高校・就労時] にお答えください。(S A)

[就学前]



就学前での福祉サービスの必要度については、「とても必要だと思う」が多いのは、「親の心理的サポートなど相談機能の充実」(79.6%)、「早期療育の充実」(77.8%)、「社会福祉制度や親の会などの情報提供の充実」(75.0%)となっている。

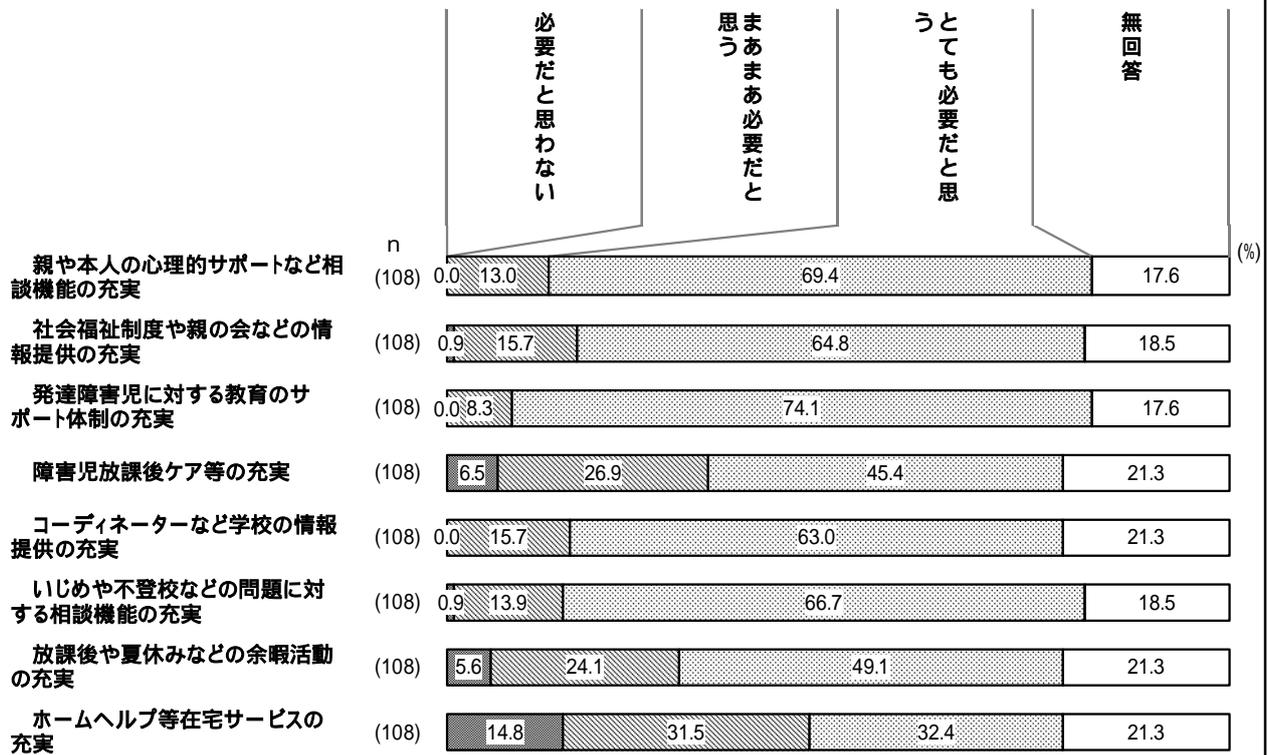
[小学校]



小学校での福祉サービスの必要度については、「とても必要だと思う」が多いのは、「発達障害児に対する教育のサポート体制の充実」(82.4%)、「親や本人の心理的サポートなど相談機能の充実」(76.9%)となっている。

なお、「必要だと思わない」は、「ホームヘルプ等在宅サービスの充実」が8.3%となっている。

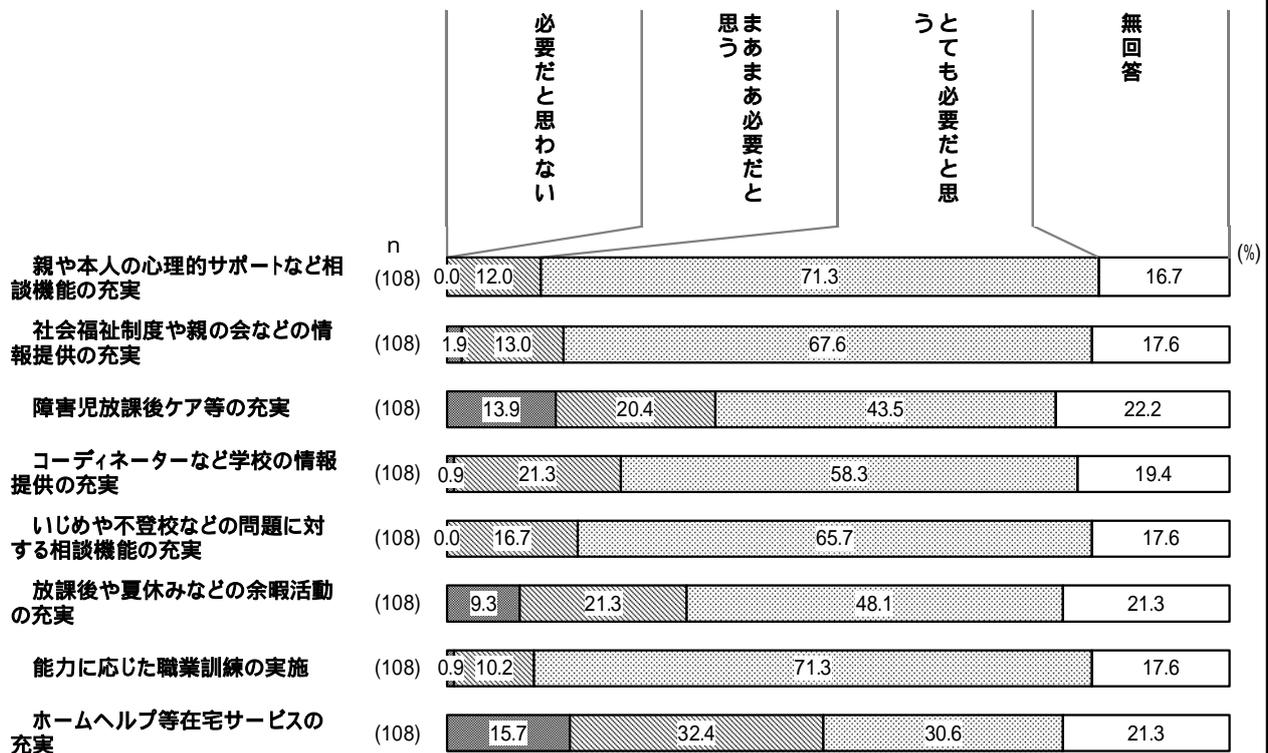
[中学校]



中学校での福祉サービスの必要度については、「とても必要だと思う」が多いのは、「発達障害児に対する教育のサポート体制の充実」(74.1%)、「親や本人の心理的サポートなど相談機能の充実」(69.4%)となっている。

なお、「必要だと思わない」は、「ホームヘルプ等在宅サービスの充実」が14.8%となっている。

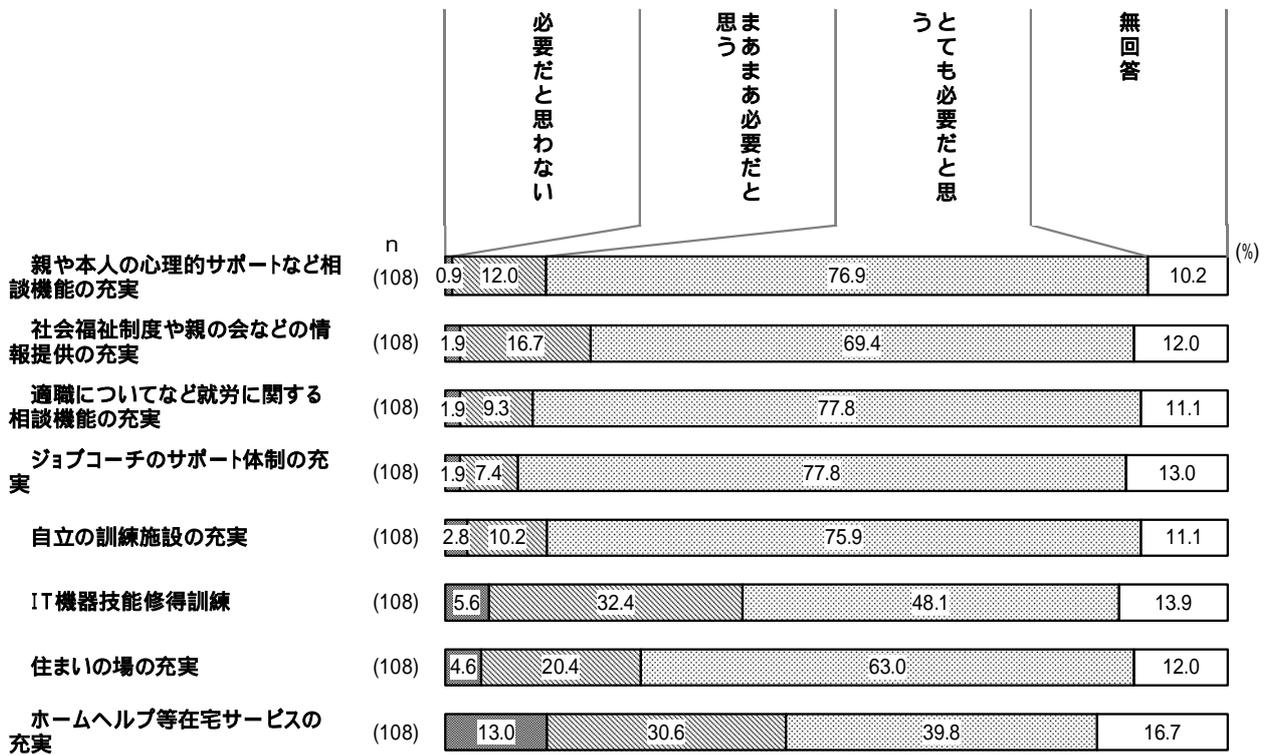
[高校]



高校での福祉サービスの必要度については、「とても必要だと思う」が多いのは、「親や本人の心理的サポートなど相談機能の充実」、「能力に応じた職業訓練の実施」(ともに71.3%)となっている。

なお、「必要だと思わない」は、「ホームヘルプ等在宅サービスの充実」が15.7%、「障害児放課後ケア等の充実」が13.9%となっている。

[就労時]

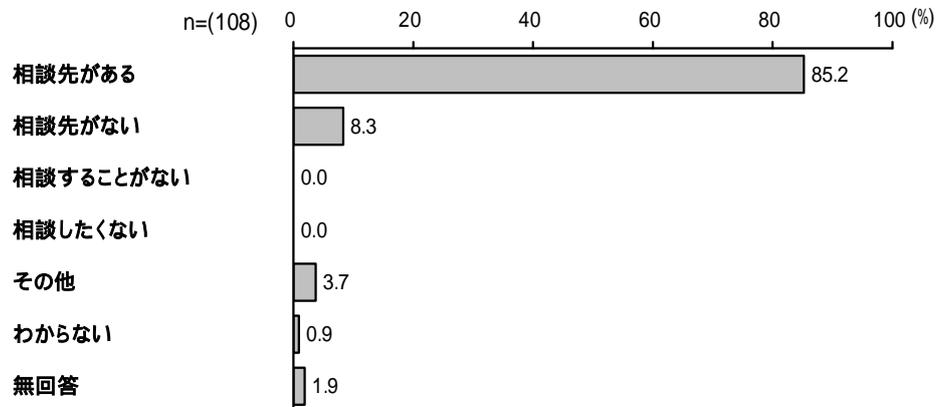


就労時での福祉サービスの必要度については、「とても必要だと思う」が多いのは、「適職についてなど就労に関する相談機能の充実」、「ジョブコーチのサポート体制の充実」(ともに77.8%)、「親や本人の心理的サポートなど相談機能の充実」(76.9%)、「自立の訓練施設の充実」(75.9%)となっている。

なお、「必要だと思わない」は、「ホームヘルプ等在宅サービスの充実」が13.0%となっている。

7 相談機能について

問 37 あなたがご本人のことで困ったときの相談について次のうちあてはまるのは何ですか。
(S A)



困ったときの相談先の有無については、「相談先がある」が85.2%を占めている。
一方、「相談先がない」は8.3%となっている。

問 38 問 37 において「1 相談先がある」を選択した方におたずねします。

(1) あなたの相談相手はどなたですか。(MA)

(上段：件数、下段：%)

調査数	家族や親戚	近所の人	友人・知人	医療機関	発達相談支援センター (アーチル)	市役所、区役所	児童相談所	障害者更生相談所	民生委員・児童委員
92 100.0	36 39.1	1 1.1	28 30.4	47 51.1	26 28.3	2 2.2	0 0.0	2 2.2	0 0.0

調査数	保育所(園)・幼稚園・ 学校の先生	地域療育等支援事業の コーディネーター	障害者団体	障害者福祉センター	本人の職場の人	その他	相談しない	無回答
92 100.0	14 15.2	7 7.6	20 21.7	3 3.3	2 2.2	22 23.9	0 0.0	1 1.1

困ったときの相談相手については、「医療機関」(47件)が最も多く、以下「家族や親戚」(36件)、「友人・知人」(28件)、「発達相談支援センター(アーチル)」(26件)となっている。
なお、「その他」については、「親の会」や「施設職員」などとなっている。

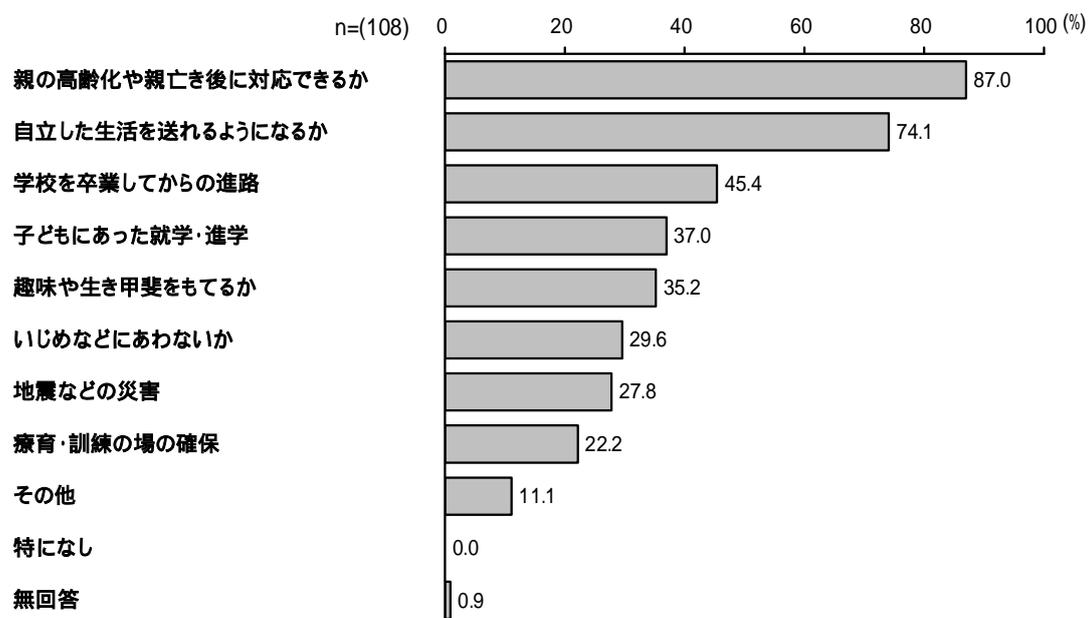
(2) あなたがご本人のことで相談していること(したいこと)は何ですか。(MA)

(上段：件数、下段：%)

調査数	発達の確認	子育てに関する事	健康管理に関する事	医療のこと	対人関係	進路(進学・就職)	施設サービスの利用	在宅福祉サービスの利用	年金や手当関係	その他	無回答
92	28	20	14	18	37	55	14	7	13	7	2
100.0	30.4	21.7	15.2	19.6	40.2	59.8	15.2	7.6	14.1	7.6	2.2

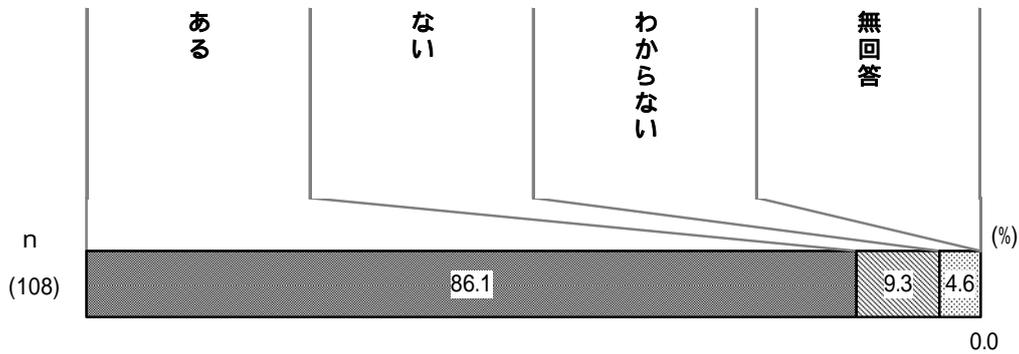
困ったときの相談相手に相談していることについては、「進路(進学・就職)」(55件)が最も多く、以下「対人関係」(37件)、「発達の確認」(28件)、「子育てに関する事」(20件)、「医療のこと」(18件)となっている。

問 39 今後、あなたはご本人のことで不安と感じていることは何ですか。(M A)



今後、子どものことで不安を感じていることについては、「親の高齢化や親亡き後に対応できるか」(87.0%)が最も多く、以下「自立した生活を送れるようになるか」(74.1%)、「学校を卒業してからの進路」(45.4%)となっている。

問 40 あなたはお子さんに障害があることで差別を受けたり、いやな思いなどをしたことがありますか。(S A)



障害を理由に差別を受けたり、いやな思いをしたことについては、「ある」が 86.1%を占めている。

問 41 問 40 において「1 ある」を選択した方におたずねします。

(1) どのような内容の差別を受けたり、いやな思いをしましたか。(M A)

(上段：件数、下段：%)

調査数	周囲の人たちの障害に対する理解の足りなさ	近所まわりの人間関係	外出時、周囲の視線、態度、言葉が気になった	交通機関利用時に運転手や客からいやな態度をとられた	窓口職員の対応が悪く、いやな顔をされる	学校等でのいじめ	その他	無回答
93	67	21	61	22	16	33	10	0
100.0	72.0	22.6	65.6	23.7	17.2	35.5	10.8	0.0

受けた差別やいやな思いの内容については、「周囲の人たちの障害に対する理解の足りなさ」(67件)が最も多く、以下「外出時、周囲の視線、態度、言葉が気になった」(61件)「学校等でのいじめ」(33件)となっている。

(2) 差別を受けたり、いやな思いをしたときに誰かに相談しましたか。(MA)

(上段：件数、下段：%)

調査数	家族や親戚	近所の人	友人・知人	医療機関	発達相談支援センター (アーチル)	市役所、区役所	児童相談所	障害者更生相談所	民生委員・児童委員
93 100.0	45 48.4	1 1.1	40 43.0	16 17.2	13 14.0	0 0.0	2 2.2	0 0.0	0 0.0

調査数	保育園・幼稚園・学校の先生	地域療育等支援事業の コーディネーター	障害者団体	障害者福祉センター	本人の職場の人	その他	相談していない	無回答
93 100.0	22 23.7	3 3.2	11 11.8	1 1.1	0 0.0	7 7.5	20 21.5	1 1.1

差別を受けたり、いやな思いをしたときの相談先については、「家族や親戚」(45件)が最も多く、以下「友人・知人」(40件)、「保育園・幼稚園・学校の先生」(22件)、「医療機関」(16件)、「発達相談支援センター(アーチル)」(13件)、「障害者団体」(11件)となっている。

一方、「相談していない」は20件となっている。

(3)(2)において「16 相談していない」を選択した方におたずねします。

相談しない理由は何ですか。(S A)

(上段：件数、下段：%)

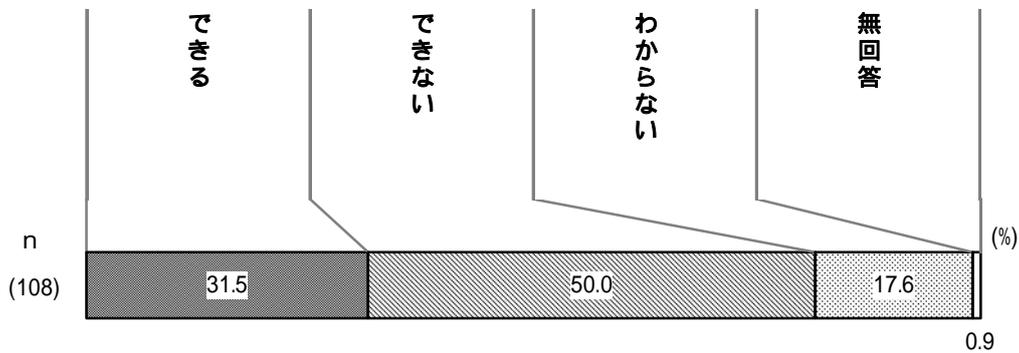
調査数	相談先がない	相談したくない	その他	わからない	無回答
20	3	1	13	3	0
100.0	15.0	5.0	65.0	15.0	0.0

差別やいやな思いを相談しない理由については、「相談先がない」(3件)、「わからない」(3件)、「相談したくない」(1件)となっている。

なお、「その他」については、「相談しても解決しないから」、「相談してもしょうがない」などとなっている。

8 災害関係について

問 42 お子さんは、地震などの災害発生時、一人で避難することができますか。
(S A)



地震などの災害発生時、一人で避難することの可否については、「できる」が31.5%、「できない」が50.0%となっている。

問 43 問 42 において「2 できない」を選択した方におたずねします。

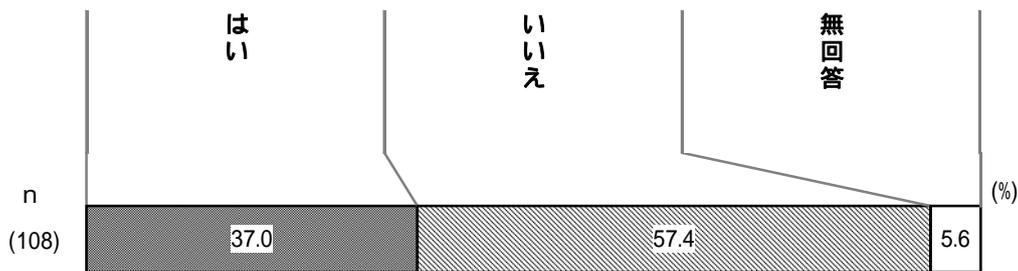
災害のとき一人で避難することができない理由は何ですか。(S A)

(上段：件数、下段：%)

理由	調査数	割合 (%)
避難勧告などの困難な情報を把握することが困難なため	13	24.1
動作が緩慢なため	0	0.0
介助者がいないと移動できないため	5	9.3
自分で判断して行動することができないため	28	51.9
パニックを起こしてしまつたため	6	11.1
その他	2	3.7
無回答	0	0.0
合計	54	100.0

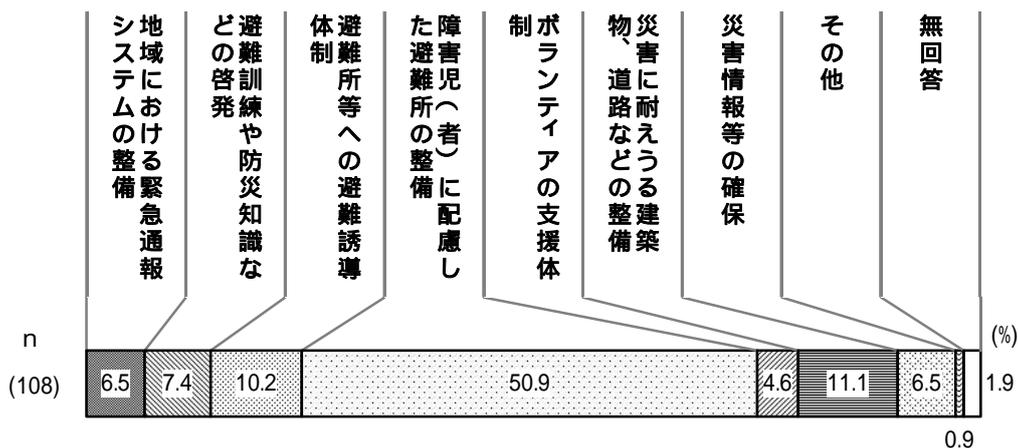
災害のとき一人で避難することができない理由については、「自分で判断して行動することができないため」(28 件) が最も多く、以下「避難勧告などの情報を把握することが困難なため」(13 件) となっている。

問 44 お子さんはお住まいの地区の避難所の場所を知っていますか。(S A)



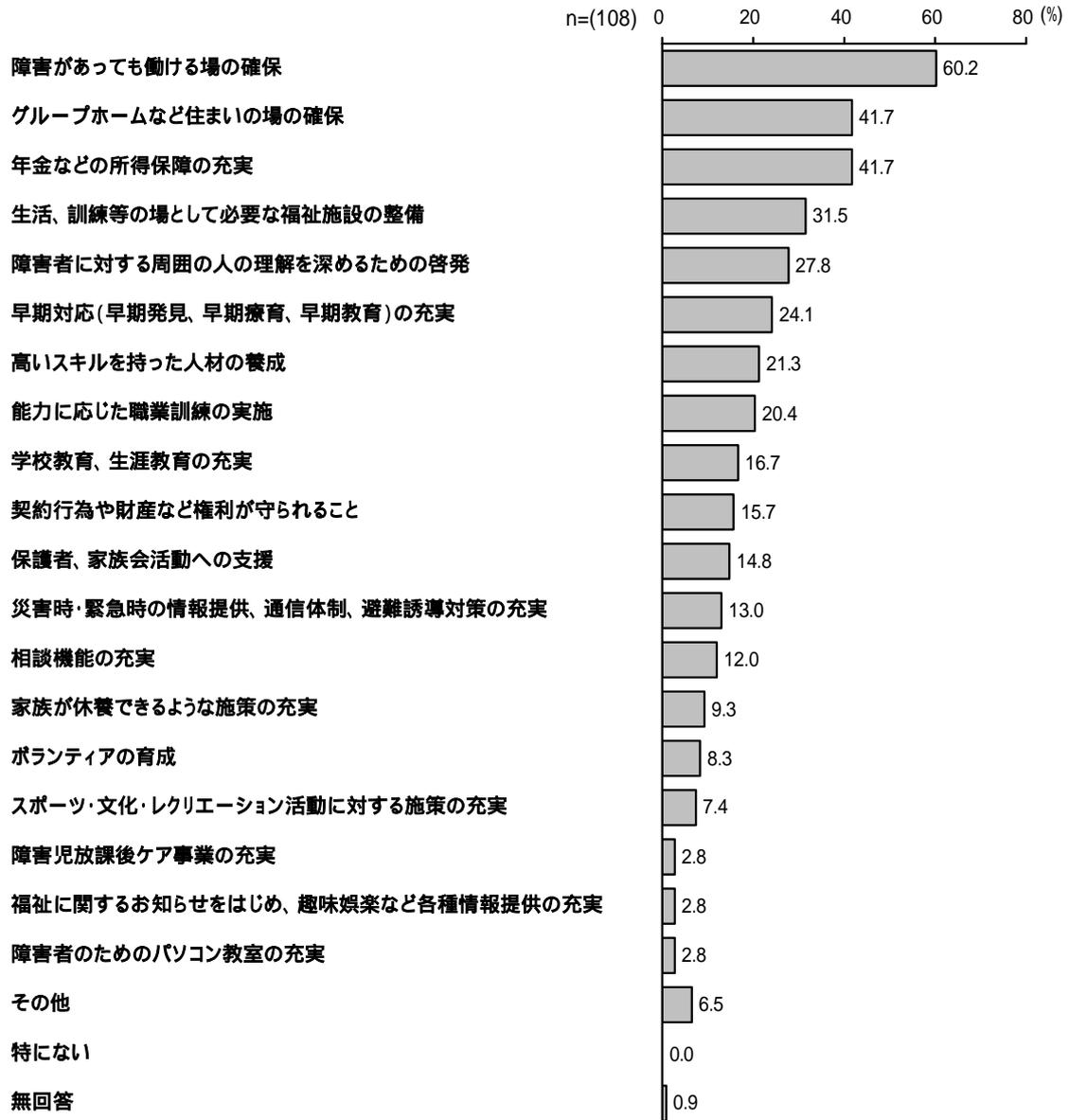
住んでいる地区の避難所の場所の認知については、知っているが 37.0%、知らないが 57.4%、となっている。

問 45 地震、台風などの災害に対して、もっとも大切と思う対策はどんなことだと思いますか。(S A)



地震、台風などの災害に対してもっとも大切と思う対策については、「障害児(者)に配慮した避難所の整備」(50.9%)が最も多く、以下「災害に耐えうる建築物、道路などの整備」(11.1%)、「避難所等への避難誘導體制」(10.2%)となっている。

問 46 今後、充実してほしい施策は何ですか。(M A)



今後充実してほしい施策については、「障害があっても働ける場の確保」(60.2%)が最も多く、以下「グループホームなど住まいの場の確保」、「年金などの所得保障の充実」(ともに41.7%)、「生活、訓練等の場として必要な福祉施設の整備」(31.5%)となっている。

9 発達障害（児）者の家族の自由回答

アンケートに、自由に発言していただける欄を設けたところ、意見数は61件であった。以下に主な意見を抜粋し、まとめた。

発達障がいに対して、まだまだ理解をしている人が少なく、自分の子どもも障がいを持っているかもしれないのに、気付かない人が多い。もっとたくさんの人に知ってもらえるように学校とかで講演を開いてほしい。

早期発見のシステムづくりをお願いしたい。あわせて、特に大学も含む、教育の理解と対応力をアップしてほしい。病院、療育施設、カウンセリング、就労支援の充実を早急をお願いします。

少し昔からみると、障がい者の福祉は少しずつ充実しているのだと思いますが、実際に障がい者と家族にとっては「ここがもっとこうだったら…」ということがたくさんあります。また、情報にふれる機会が少なく、制度を利用していない方もいらっしゃるのではないかと思います。まずは、障がいのある子どもがいて、働かなければならないお母さんのための、子どもの放課後預かり先が、苦勞していくつものサービスをかき集めて受けなければならないという現状が変わるとよいと思います。

学校ではまだまだ発達障がいに対応していただけるほどの人材確保が不足していると思います。普通学校に入っても、結局学習障がいの子はついていけず、不登校になってしまいます。その子にあったツールを探していただいたり、パソコンを使っただけの授業など、工夫が必要かと思います。担当の先生はとても忙しいので、発達障がいについて詳しい特別支援の先生がもっと増えてくれたら嬉しいです。

軽度の場合、療育の対象外になってしまう。的確な支援をしてやればもう少し楽しく生活できるのに…。と思うことが多くある。支援方法を学べる機会が多くあるとよいのですが…（親がやるしかないが、どう支援してよいかわからず、本人も親も苦勞しているので…）。

成人して発達障がい気が付くケースがあります。その前に相談できる機関が限られています。アールは2～3ヶ月待ちは当然のような状況で、小児はまだ、相談できるシステムはできていますが、成人の頼る機関がなかなか見つかりません。大学も小児の研究センターですし、困っております。

発達障がいを持った本人が、社会参加しながら安定して暮らせるよう、生涯を通しての支援を要望します。「手帳」の有無で受けられるサービスに差が生じるのであれば、発達障がい者にも手帳を交付してほしいと思います。発達障がいに対する理解が広がれば、改善されることが少なくともないので、社会への啓発も重要だと思います。

自閉症などに入りやすい施設がほしい。グループホーム、ケアホームも必要ですが、やはり入所施設は必要だと思う。宿泊訓練するところも少なく、できない状態。

高機能の場合、障がい者としての制度を受けるのも困難であり、一般の方と同じ土俵で就職活動をしなければならない。明らかに健常者の方と一緒に面接を受けたら落とされてしまう（ましてやこの不況の世の中なので）。中途半端な子どもたちにも救いの手を差し伸べていただけたらありがたいです。よろしくお願いします。

支援学級には通っていますが、交流をする、校外学習に行く、各学年ごとの学習をする時など、人手の問題があるように（足りない）思います。情緒クラスに対する教職員の数をもう少し検討してほしい。親がこどもの発達や、トラブルなどで悩み、相談したい時に、アーチルや、医療機関はいつも予約がいっぱいと言われ、3ヶ月～半年待ちになる。もっとスムーズに悩みを聞いてもらえる機関があればと思う。母がフルタイムで働いているので、障がい児の放課後ケアをもっと充実してほしい。回数限度が毎年10回とのはあまりにも少ないと思うし、なかなか10回もらえなかった。児童デイの施設も少ないと思うし、どこもいっぱいなかなか回数を増やすことができない。また、土曜も対応してくれる児童デイがあればと思う。障がい児がスポーツを楽しむ場を増やしてほしい。今ウェルフェアプールに通っていますが、卓球など、野球、他のスポーツのスクールもあればと思う。

地域生活支援とありますが、地域生活は私どもの子どもには難しく思います。親亡き後の対応ができるかどうか？入所施設も必要と思います。

私の子どもは現在25歳男子なので、親の高齢化や親亡き後のことがとても心配です。宮城県では施設解体論を打ち出し、入所施設から、ケアホーム、グループホームへの移行を進めていますが、これが本当に大丈夫なのか見えてきません。社会福祉法人の各団体がケアホームの推進をしているようですが、情報公開が少なく、困っています。もっとお互いの団体がやっていること、うまくいっていることを情報公開すれば、仙台市内にも知的障がい者のケアホームやグループホームが増えると考えます。自分の施設だけでかこわないで、自分の団体の利用者だけでなく、広く障がい者（児）のことを考えて行動すれば、仙台の福祉全体がよくなってくると考えます。

本人なりの自立をして、継続してできる仕事があることを願っています。まだまだジョブコーチについて理解が少ないのもあるのですが、ジョブコーチが入れない(入ることを拒む)職場があります。ジョブコーチについて会社への啓発ということはどのようなになっているのでしょうか？

発達障がい、あまりにも一般に知られていない(理解されていない)と思います。そのために、色々な誤解やお互いに不快感を持ってしまったりなど、ということがどうしてもおきてしまいます。発達障がいは個人によって程度もさまざま、また、その障がいの様子(どういう面が苦手か)もまちまちです。さらに、とりようによっては「わがまま」「変わった人」ととられ、障がいだとは思われず、性格と思われてしまうことが本当にたくさんあります。そのためにつらい思いをしている方が多いと思います。時間がかかってもかまわないので、福祉サービスの充実と並行させて、社会に対する理解を広めていってほしいと思います。

